

編集顧問

生田 房弘	臺 弘
大友 英一	金澤 一郎
酒田 英夫	佐野 圭司
島津 浩	杉田 秀夫
高倉 公朋	塚田 裕三
中里 洋一	彦坂 興秀
平山 恵造	藤澤浩四郎
真柳 佳昭	萬年 甫
水野 美邦	柳澤 信夫

編集委員

岩田 誠 (編集主幹)	
石塚 典生	糸山 泰人
内山真一郎	梶 龍兒
河村 満	高坂 新一
作田 学	辻 省次
寺本 明	中込 忠好
中野 今治	水澤 英洋

編集同人

入来 篤史	岩田 淳
宇川 義一	内原 俊記
大隅 典子	岡部 繁男
神田 隆	木村 和美
久保 義弘	栗栖 薫
桑原 聡	小林 靖
斉藤 延人	砂田 芳秀
高橋 良輔	瀧山 嘉久
武田 伸一	千葉 厚郎
平田 幸一	寶金 清博
星 英司	星野 幹雄
本田 学	松野 彰

(五十音順)

あとがき

本号の特集においては、辺縁系脳炎についての6本のいずれ劣らぬ玉稿が揃った。この辺縁系脳炎という概念は、近年大きなパラダイムシフトがあった。湯浅龍彦先生らの「辺縁系脳炎——歴史、症状、最新分類」は、そのところを精緻な論考でお示しになった。また、著者自身の経験を踏まえ、2010年の改定案を提示された。それによると第1項ウイルス性辺縁系脳炎、第2項自己抗体介在性辺縁系脳炎、第3項自己免疫疾患に関連する辺縁系脳炎、第4項疾患の位置づけが不明な辺縁系脳炎に分類した。これは今後各方面に大きな影響を与えるとともに、読者に資するところが大変大きいと思う。高橋幸利先生らは辺縁系脳炎とグルタミン酸受容体抗体についてお書きになった。非ヘルペス性急性辺縁系脳炎は年間550人の発生があると考えられるが、抗GluR ϵ 2抗体はその約60%にみられるという。また陽性群では初発神経症状として言動の異常、陰性群では痙攣が多かったという。最近注目されている抗NMDA受容体複合体抗体についても論述されている。山本知孝先生らは抗Ma2抗体陽性脳炎と辺縁系についてお書きになった。抗Ma2抗体陽性脳炎は早期に反応する症例が少ない点が重要なポイントである。臨床症状、病理変化、予後などについて自験例をまじえて詳しい総説をお書きになった。

庄司紘史先生は非ヘルペス性急性辺縁系脳炎(NHALE)の臨床をお書きになった(ただし、庄司先生も書かれているように、NHALEあるいはNHLEはわが国で汎用されているが、国際的には認知されていない)。これはヘルペス脳炎、傍腫瘍性辺縁系脳炎とオーバーラップする病態があるが、特にNHALE、抗NMDA受容体抗体陽性脳炎の3自験例を中心に臨床、後遺症などを詳細にお書きいただいた。吉川哲史先生は小児だけでなく、成人でも中枢神経病原性について注目されているHHV-6脳炎の病態と臨床、脳波などについてお書きいただいた。

望月葉子先生らは非ヘルペス性辺縁系脳炎(NHLE)の病理を自験例を中心にお書きいただいた。みごとなカラー図表は読者の目を奪うことであろう。

桑原 聡先生は、「神経生理学からみたALSの病態と治療展望」をお書きいただいた。先生が長い間リサーチを続けておられる神経生理学的アプローチがALSの病態解明に寄与することが期待される。長峯正典先生らは「Williams症候群を通して社会脳(social brain)を探る」という論文を書かれた。社会脳とは自己と他者を認識し、対人交流を可能とするのに必要な社会的情報処理に特化した脳の神経基盤を言うそうである。原因遺伝子が明らかな疾患を研究することで、より均質な対象を研究することができる。今後の研究の進歩に注目したい。

(作田 学)

BRAIN and NERVE

(第62巻 第8号)

2010年8月1日(毎月1回1日発行)

定価2,730円〔本体2,600円+税5% (配送料実費)〕

〔2010年、年ぎめ予約購読料35,460円・電子ジャーナル閲覧

オプション付46,100円(配送料弊社負担)〕

販売部直通電話 (03)3817-5659・5660

振替口座 00170-9-96693 番

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

電話 本誌編集室直通(03)3817-5701 (小藤・多淵・山崎)

FAX (03)3815-7802

E-mail bn@igaku-shoin.co.jp

Web <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/bn>

印刷所 ㈱アイワード (011)241-9341

広告申込所 ㈱ハイブリッジエージェンシー (03)3814-0089

- Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo ©2010, Printed in Japan.
- 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は㈱医学書院が保有します。
- JCOPY (株)出版者著作権管理機構委託出版物)

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。